

(1) 喜多方市立適正規模適正配置実施計画（案）たたき台の検討状況について

地域設定（学区）と学校規模のシミュレーションの絞り込み（案）の検討

●印：各パターン内の全ての学区において、望ましい学級数や人数に該当するもの。
また、ページ番号については、別冊「地域設定（学区）と学校規模のシミュレーション」のページ番号と一致しています。

		望ましい規模				絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）			望ましい規模		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）
地区名	中学校	学級数	学級人数		ページ			小学校	学級数	学級人数	ページ			
喜多方	中	A（現行）	●	①	P1	第一中学校、第二中学校区は望ましい学校規模に該当しているが、第三中学校区の学級数について、望ましい学校規模に該当していない。	— 【学区の概要】 現状維持	小	①（現行）		P2～3			—
				②				小	①（現行）		P2～3			—
				③				小	①（現行）		P2～3			—
喜多方	中	B	●	①	P4	第一中学校、第二中学校区は望ましい学校規模に該当しているが、第三中学校区の学級数について、望ましい学校規模に該当していない。	— 【学区の概要】 第一中と第二中を統合とし、第三中は存続。 2つの中学校区に再編。	小	①		●	P5		—
								小	②		●	P6		—
								小	③	●	●	P7		—
								小	①			P8		—
				②	P4			小	②			P9		—
								小	③	●	●	P10		—

望ましい規模					望ましい規模																		
地区名	中学校	学級数	学級人数		絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数	小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）											
喜多方	中	C	●	●	① P11	それぞれの校区について、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・第一中学校区と第三中学校区が同じ組合せになるパターンであり、東四ツ谷、岩月町下台、関柴町上高領、西中明の各行政区の一部が第一中学校もしくは第三中学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・第一、第三中学校区について、遠距離通学となる生徒への対応。 ・それぞれの生徒にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン	小	①	●	●	P14	●	6つある小学校を2つにする再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・第二小学校区と豊川小学校区が同じ組合せになるパターンであり、豊川地区の複数の行政区が第二小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 （高吉二区の一部、太郎丸の一部、堂畑の一部） 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・2つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン	【学区の概要】 6つある小学校を2つにする再編 （第二小、豊川小、慶徳小） （第三小、関柴小、熊倉小）							
																	小	②	●	●	P13	〃	—
																	小	③	●	●	P15	望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—
																	小	①	●	●	P16	3つある小学校を1つにする再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・第一小学校区と松山小学校区が同じ組合せになるパターンであり、松山地区の複数の行政区（東桜ガ丘、清水台の一部、南桜ケ丘、北桜が丘の一部、坂井）が第一小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン
					小	②	●	●	P16	●	3つある小学校を1つにする再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・第一小学校区と松山小学校区が同じ組合せになるパターンであり、松山地区の複数の行政区（東桜ガ丘、清水台の一部、南桜ケ丘、北桜が丘の一部、坂井）が第一小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン	【学区の概要】 3つある小学校1つにする再編 （第一小、松山小、上三宮小）										
					小	①	●	●	P15	望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—												
他の絞り込み候補パターンとの比較					【中学校】 ・統合する校区（上記①第一・第三中学校区）と存続する校区（第二中学校区）の生徒数の差について、Dパターンより差が小さい。 ・中学校が1つの校区への再編であるEパターンと比較すると学校規模は小規模となる。 ・各地区の位置（地勢面）からするとDパターンと比較して、統一した通学手段、距離の基準についての決定に苦慮する可能性がある。（東西南北に区域が位置している。） ・通学区域が広範囲となるパターンが多いEパターンと比較して、統一した通学手段、距離の基準について、決定しやすい可能性がある。 【小学校】 ・小学校のパターンについて、C、Dパターンは、既存の中学校区単位で、それぞれ3つの小学校を1つにするパターン（学校の組合せが同じ）が候補パターンとなっている。 ・第三小、関柴小、熊倉小の組合せは、第二小、豊川小、慶徳小及び第一小、松山小、上三宮小の組合せと比較して、児童数は少ない組合せとなる。 ・Eパターンの学校規模の候補パターンの中には、C、Dパターンと比較して学校規模が大きくなる組み合わせがある。 ・Eパターンと比較して、既存の地域のまとまりや既存中学校区に配慮されている。																		

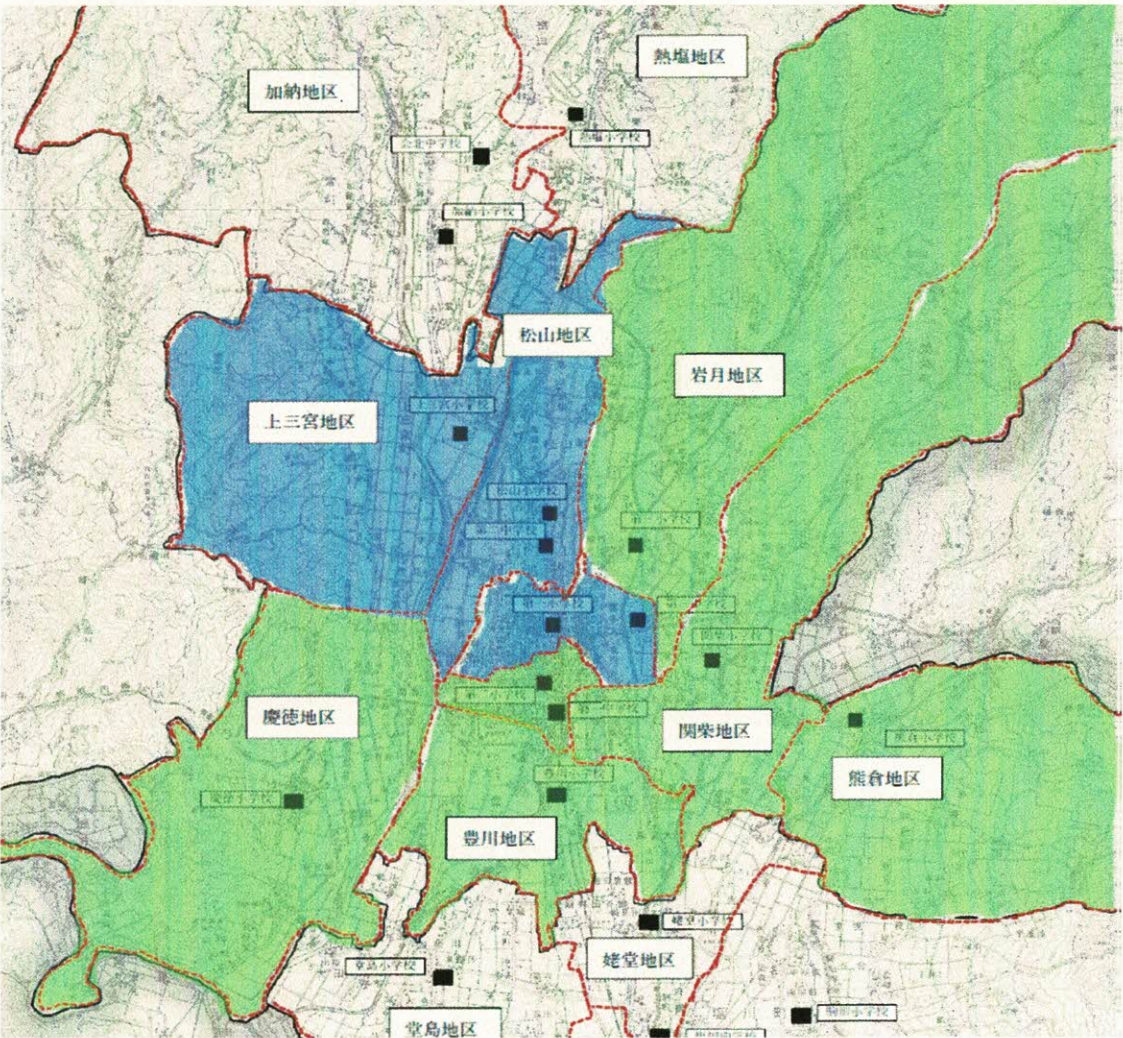
(中学校の地域設定(学区)のパターン)

○中学校区-喜多方地区-中学校パターンC

パターンC 第一中と第三中を統合(同一学区)とし、第二中は存続する。

喜多方地区について、2つの中学校区に再編する。

- ① 第一・第三中学校区(第二小、豊川小、慶徳小)(第三小、関柴小、熊倉小)【緑色】
- ② 第二中学校区(第一小、松山小、上三宮小)【青色】



・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜C①	2060年(R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一・第三中学校区	367	122	12	4.0	30.5

※ 第一小学校区で第三中へ進学している児童は第二中へ変更。2060年は人数を現在の人数で按分し算出している。

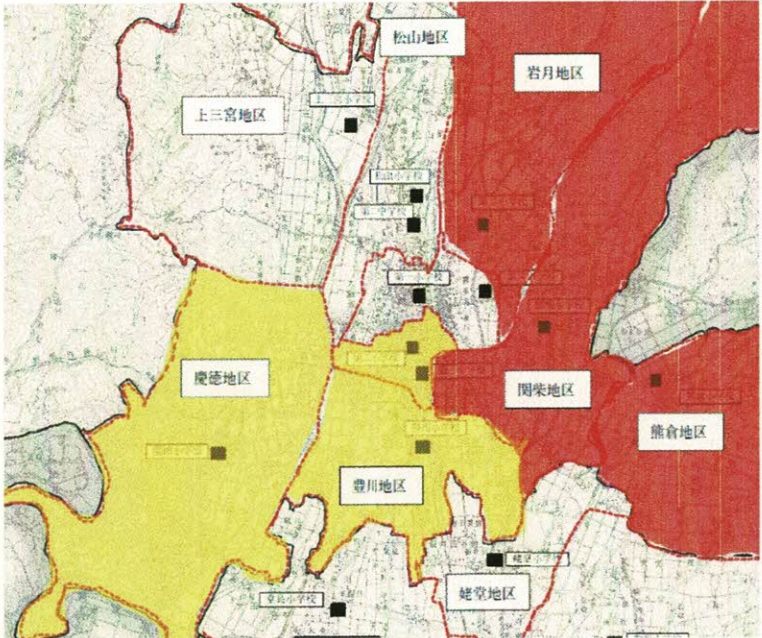
中喜C②	2060年(R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第二中学校区	244	81	9	3.0	27.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

(小学校:中学校の地域設定(学区)パターンCの小学校のパターン)

●中学校区-喜多方地区-中学校パターンC①-小学校パターン③

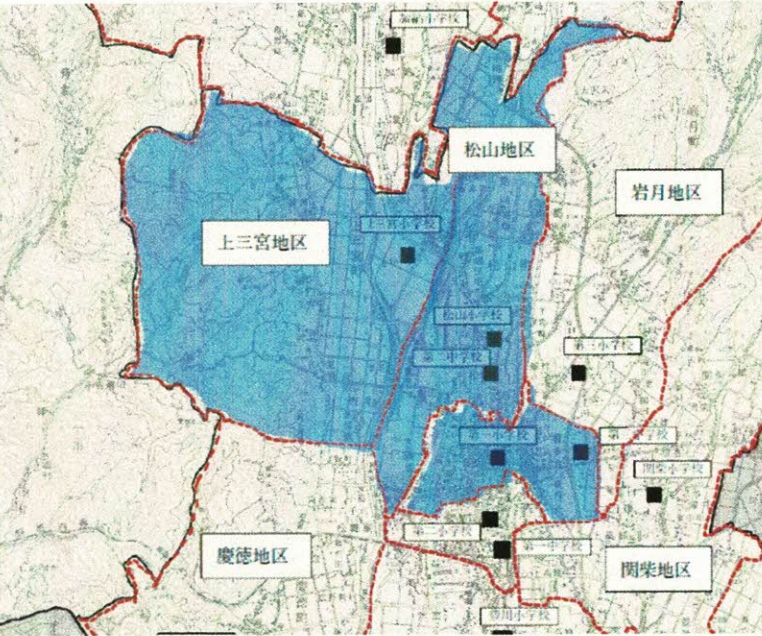


・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜C①小③	2060年(R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第二・豊川・慶徳小学校区	425	71	18	3.0	23.7
第三・関柴・熊倉小学校区	270	45	12	2.0	22.5

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○
○	○

●中学校区-喜多方地区-中学校パターンC②-小学校パターン②



・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜C②小②	2060年(R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一・松山・上三宮小学校区	489	82	18	3.0	27.3

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

望ましい規模										望ましい規模									
地区名	中学校		学級数	学級人数			絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）				
喜多方	中	D	●	●	①	P17	それぞれの校区について、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。	絞り込み候補パターン	小	①			P18	望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—				
										②			P19	〃	—				
									小	③	●	●	P20	●	6つある小学校を2つにする再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・第一小学校区と松山小学校区が同じ組合せになるパターンであり、松山地区の複数の行政区（東桜ガ丘、清水台の一部、南桜ヶ丘、北桜が丘の一部、坂井）が第一小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・2つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 6つある小学校を2つにする再編 （第一小、松山小、上三宮小） （第三小、関柴小、熊倉小）			
					小	①				●	P21	望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—						
					小	②				●	P22	〃	—						
					小	③			●	●	P23	●	3つある小学校を1つにする再編であり、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・第二小学校区と豊川小学校区が同じ組合せになるパターンであり、豊川地区の複数の行政区が第二小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。（高吉二区の一部、太郎丸の一部、堂畑の一部） 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 3つある小学校を1つにする再編 （第二小、豊川小、慶徳小）					
他の絞り込み候補パターンとの比較					【中学校】 ・統合する校区（上記①第二・第三中学校区）と存続する校区（第一中学校区）の生徒数の差について、Cパターンより差が大きい。 ・中学校が1つの校区への再編であるEパターンと比較すると学校規模は小規模となる。 ・各地区の位置（地勢面）からするとCパターンと比較して、統一した通学手段、距離の基準について決定しやすい可能性がある（南北で区域が分かれる。） ・通学区域が広範囲となるパターンが多いEパターンと比較して、統一した通学手段、距離の基準について、決定しやすい可能性がある。 【小学校】 ・小学校のパターンについて、C、Dパターンは、既存の中学校区単位で、それぞれ3つの小学校を1つにするパターン（学校の組合せが同じ）が候補パターンとなっている。 ・第三小、関柴小、熊倉小の組合せは、第二小、豊川小、慶徳小及び第一小、松山小、上三宮小の組合せと比較して、児童数が少ない組合せとなる。 ・Eパターンの学校規模の候補パターンの中には、C、Dパターンと比較して学校規模が大きくなる組み合わせがある。 ・第三小、関柴小、熊倉小の組合せは、第二小、豊川小、慶徳小及び第一小、松山小、上三宮小の組合せと比較して、児童数は少ない組合せとなる。 ・Eパターンと比較して、既存の地域のまとまりや既存中学校区に配慮されている。														

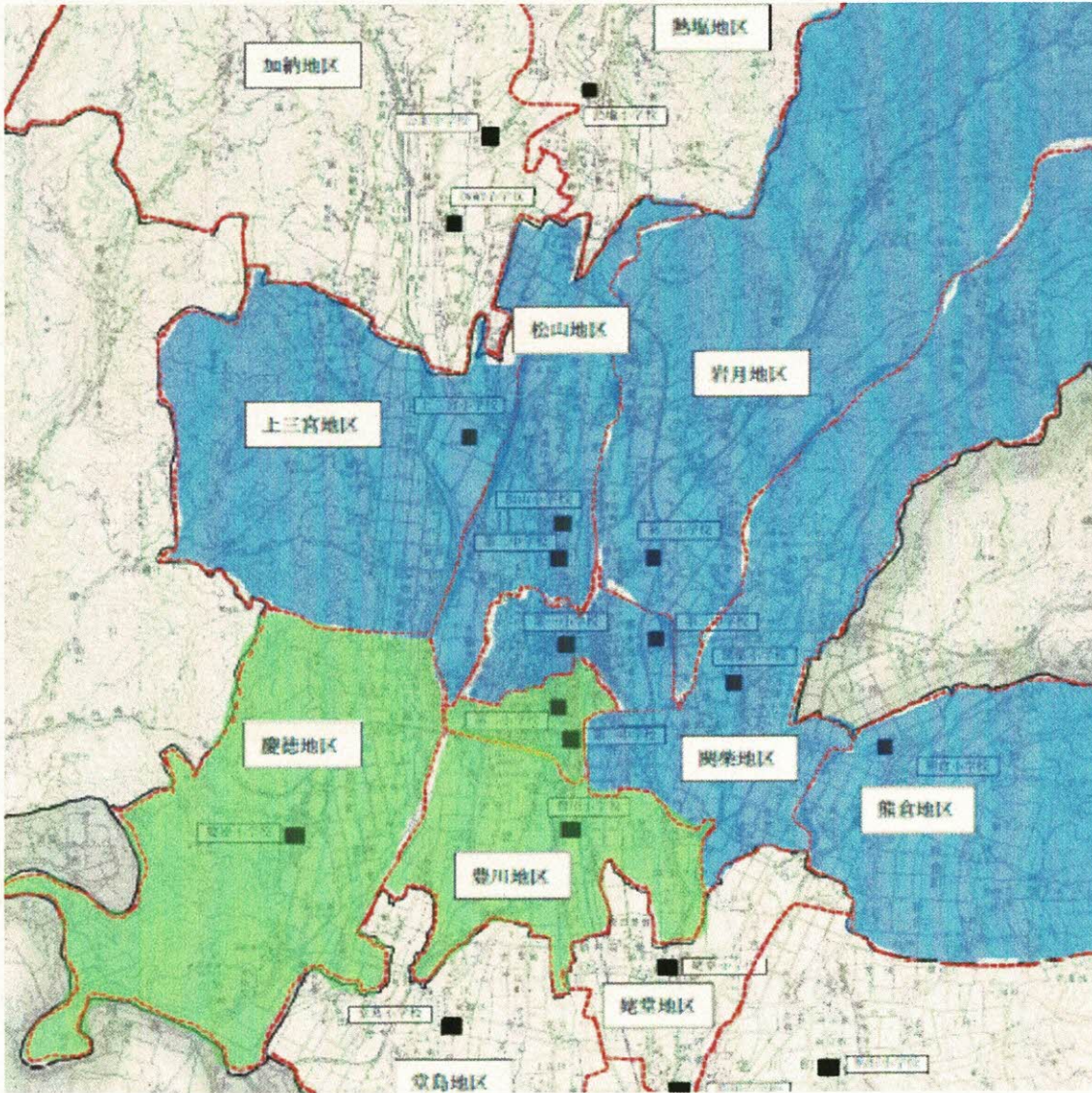
(中学校の地域設定 (学区) のパターン)

○中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンD

パターンD 第二中と第三中を統合 (同一学区) とし、第一中は存続する。

喜多方地区について、2つの中学校区に再編する。

- ① 第二・第三中学校区 (第一小、松山小、上三宮小) (第三小、関柴小、熊倉小) 【青色】
- ② 第一中学校区 (第二小、豊川小、慶徳小) 【緑色】



・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中喜D①	2060年 (R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第二・第三中学校区	393	131	15	5.0	26.2

※ 第一小学校区で第三中へ進学している児童は第二中へ変更。2060年の人数を現在の人数で按分し算出している。

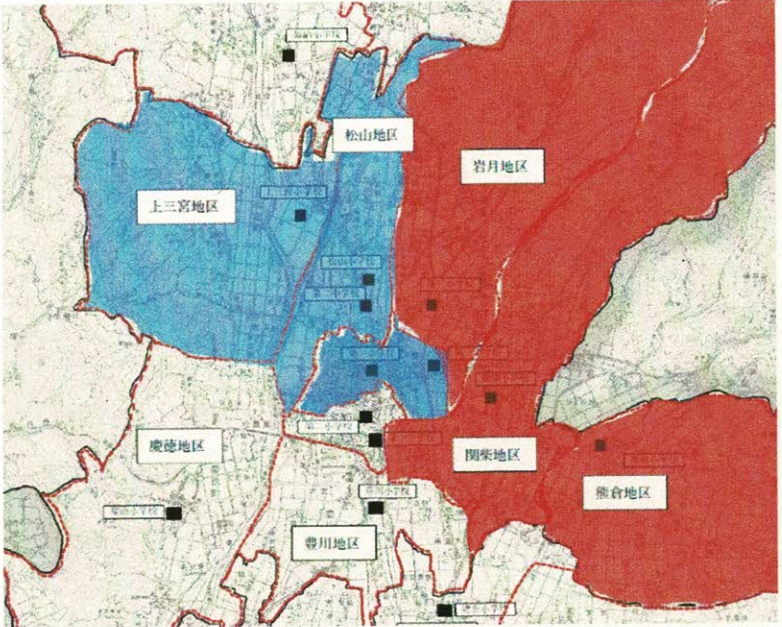
中喜D②	2060年 (R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一中学校区	218	73	9	3.0	24.3

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

(小学校：中学校の地域設定 (学区) パターンDの小学校のパターン)

●中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンD①ー小学校パターン③

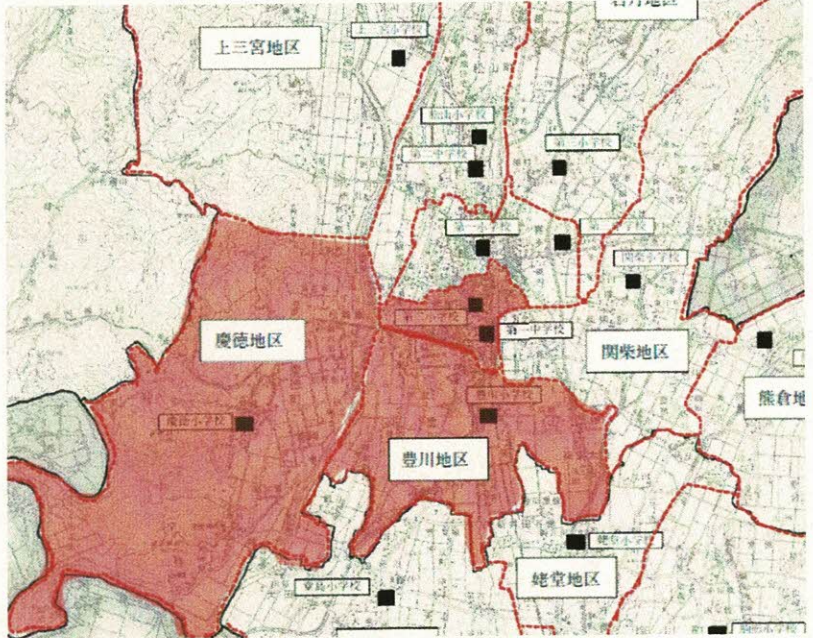


・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中喜D①小③	2060年 (R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一・松山・上三宮小学校区	489	82	18	3.0	27.3
第三・関柴・熊倉小学校区	270	45	12	2.0	22.5

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○
○	○

●中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンD②ー小学校パターン③



・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中喜D②小③	2060年 (R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第二・豊川・慶徳小学校区	425	71	18	3.0	23.7

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

望ましい規模						望ましい規模								
地区名	中学校		学級数	学級人数		絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）		小学校	学級数	学級人数	小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）
喜多方	中	E	●	●	① P24	1つの中学校への再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。 ・喜多方地区の中学校が1つになるパターンであり、寺町一区、寺町二区の行政区の一部が第一中学校もしくは第二中学校に通学していること、東四ツ谷、岩月町下台、関柴町上高瀬、西中明の各行政区の一部が第一中学校もしくは第三中学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの中学校への再編であり、遠距離通学となる生徒への対応。 ・それぞれの生徒にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 3つの中学校を統合し、1つの中学校区に再編。		小	①	● P25		望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—

望ましい規模						望ましい規模										
地区名	中学校		学級数	学級人数		絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）		小学校	学級数	学級人数	小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）		
喜多方	中	E	●	●	① P24	1つの中学校への再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。 ・喜多方地区の中学校が1つになるパターンであり、寺町一区、寺町二区の行政区の一部が第一中学校もしくは第二中学校に通学していること、東四ツ谷、岩月町下台、関柴町上高瀬、西中明の各行政区の一部が第一中学校もしくは第三中学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの中学校への再編であり、遠距離通学となる生徒への対応。 ・それぞれの生徒にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 3つの中学校を統合し、1つの中学校区に再編。		小	②	●	●	P26	●	2つの小学校は現行、7つの小学校を2つにする再編で、望ましい学校規模に達しており以下の理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ただし、このパターンは、既存中学校区の区域を越えての組合わせとなっている。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・再編となる2つの小学校は遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 2つの小学校は現行、7つの小学校を2つにする再編。 第一小 第二小 （関柴小、熊倉小、豊川小、慶徳小） （松山小、上三宮小、第三小）
他の絞り込み候補パターンとの比較			【中学校】 ・1つの校区への再編であることから、C、Dパターンと比較すると学校規模は大きくなる。 ・C、Dパターンと比較して、校区が広範囲となるため生徒と地域の関わりについて連携等に工夫が必要となるパターンである。 ・通学区域が広範囲となり、統一した通学手段距離の基準について、C、Dパターンと比較して決定が難しい可能性がある。													
			【小学校】 ・喜多方地区の旧市内にある2つの小学校（第一小、第二小）については、現状維持のパターンとなっている。 ・パターン内で、各校区の児童数について、望ましい規模に該当し、校区同士のバランスが取れている。 ・既存中学校区を超えての統合パターンであり、通学範囲がC、Dパターンと比較して遠距離となる可能性が高いパターンである。 ・校区が広範囲となり、C・Dパターンと比較して、生徒と地域の関わりについて連携等に工夫が必要となるパターンである。													

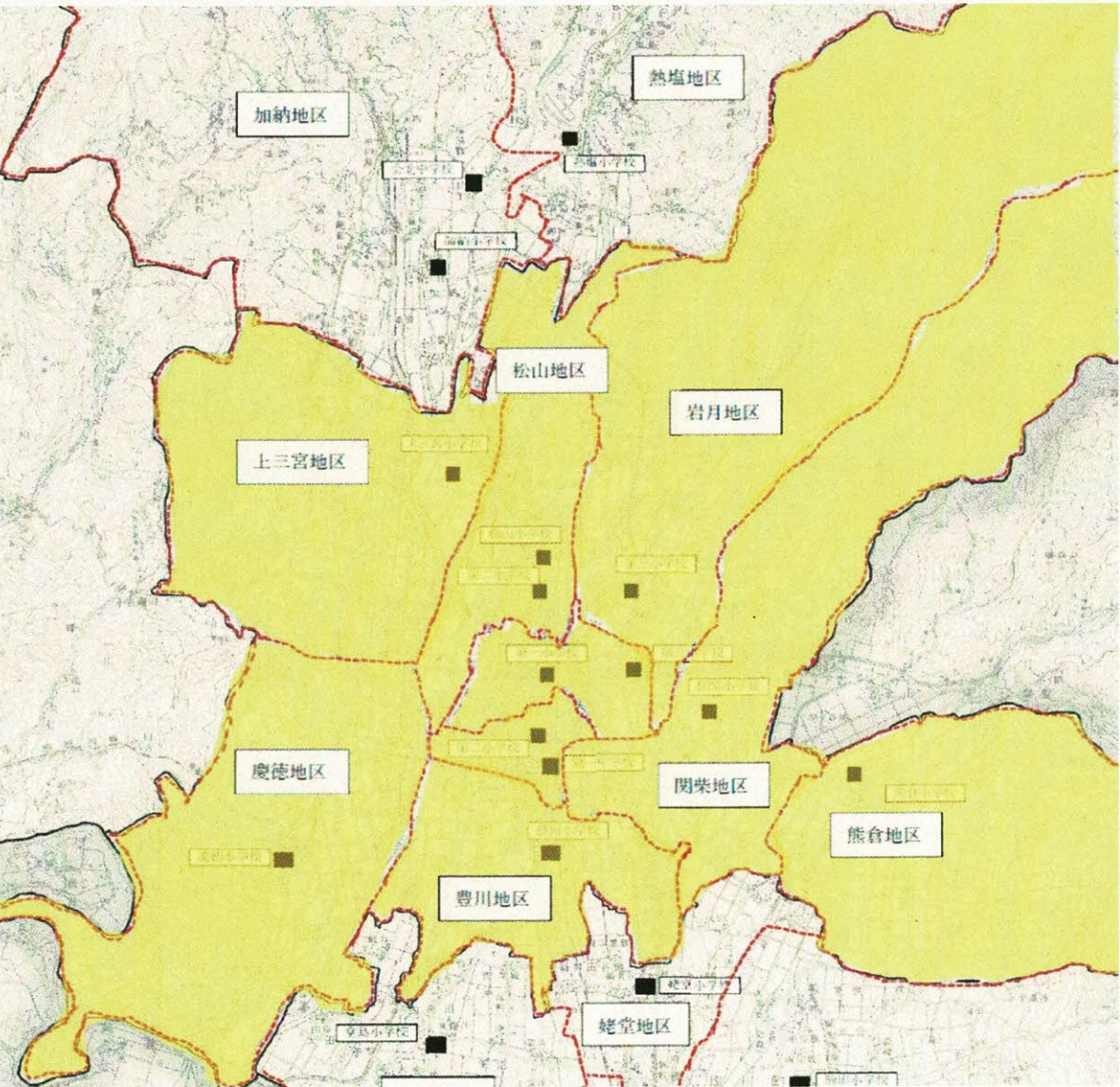
(中学校の地域設定(学区)のパターン)

○中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンE

パターンE 喜多方地区の3つの中学校を統合(同一学区)とし、1つの中学校区に再編する。

① 第一・第二・第三中学校区

(第一小、第二小、松山小、上三宮小、第三小、関柴小、熊倉小、豊川小、慶徳小)



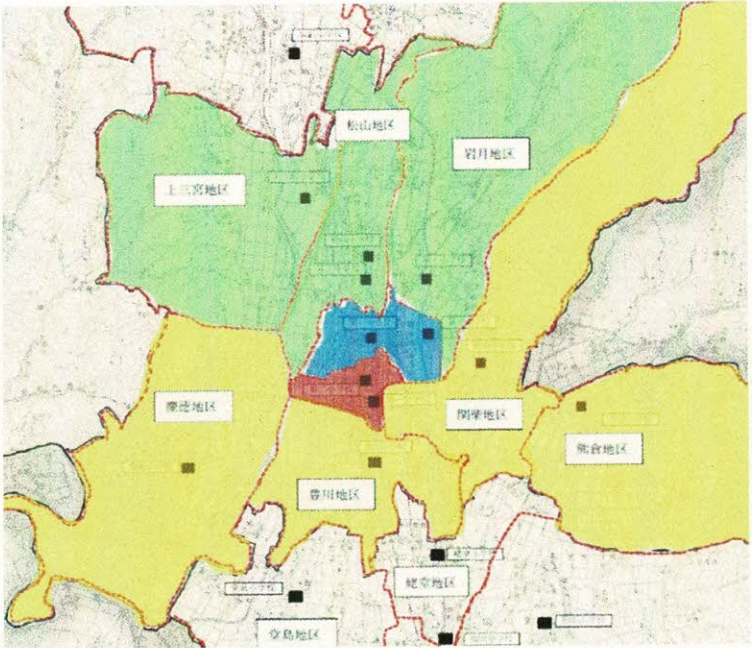
・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜E①	2060年(R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一・第二・第三中学校区	611	204	21	7.0	29.1

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

(小学校：中学校の地域設定(学区)パターンEの小学校のパターン)

●中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンE①ー小学校パターン②



・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜E①小②	2060年(R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一小	322	54	12	2.0	27.0
第二小	260	43	12	2.0	21.5
関柴・熊倉・豊川・慶徳小学校区	347	58	12	2.0	29.0
松山・上三宮・第三小学校区	255	43	12	2.0	21.5

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○
○	○
○	○
○	○

望ましい規模										望ましい規模									
地区名	中学校		学級数	学級人数			絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）				
喜多方	中	E	●	●	①	P24	1つの中学校への再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。 ・喜多方地区の中学校が1つになるパターンであり、寺町一区、寺町二区の行政区の一部が第一中学校もしくは第二中学校に通学していること、東四ツ谷、岩月町下台、関柴町上高領、西中明の各行政区の一部が第一中学校もしくは第三中学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの中学校への再編であり、遠距離通学となる生徒への対応。 ・それぞれの生徒にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 3つの中学校を統合し、1つの中学校区に再編。	小	③	●	●	P27	●	9つある小学校を3つにする再編で、望ましい学校規模に達しており以下の理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・松山地区の複数の行政区（東桜ガ丘、清水台の一部、南桜ヶ丘、北桜が丘の一部、坂井）が第一小学校に通学していること、及び、豊川地区の複数の行政区（高吉二区の一部、太郎丸の一部、堂畑の一部）が第二小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・3つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 9つある小学校を3つにする再編。 （第二小、豊川小、慶徳小） （第一小、松山小、上三宮小） （第三小、関柴小、熊倉小）			
他の絞り込み候補パターンとの比較					【中学校】 ・1つの校区への再編であることから、C、Dパターンと比較すると学校規模は大規模となる。 ・C・Dパターンと比較して、校区が広範囲となるため、生徒と地域の関わりについて連携等に工夫が必要となるパターンである。 ・通学区域が広範囲となり、統一した通学手段距離の基準について、C、Dパターンと比較して決定が難しい可能性がある。 【小学校】 ・小学校のパターンについて、C、Dパターンと同じく、既存の中学校区単位で、それぞれ3つの小学校を1つにするパターン（学校の組合せが同じ）が候補パターンとなっている。 ・第三小、関柴小、熊倉小の組合せは、第二小、豊川小、慶徳小及び第一小、松山小、上三宮小の組合せと比較して、児童数が少ない組合せとなる。 ・Eパターンの他の候補パターンと比較して、生徒と地域の関わりについて連携は取りやすいと考えられるパターンである。														

望ましい規模										望ましい規模									
地区名	中学校		学級数	学級人数			絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）				
喜多方	中	E	●	●	①	P24	1つの中学校への再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。 ・喜多方地区の中学校が1つになるパターンであり、寺町一区、寺町二区の行政区の一部が第一中学校もしくは第二中学校に通学していること、東四ツ谷、岩月町下台、関柴町上高領、西中明の各行政区の一部が第一中学校もしくは第三中学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・1つの中学校への再編であり、遠距離通学となる生徒への対応。 ・それぞれの生徒にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 3つの中学校を統合し、1つの中学校区に再編。	小	④	●	●	P28	●	9つある小学校を2つにする再編で、望ましい学校規模に達しており以下の理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ただし、このパターンは、既存中学校区の区域を越えての組合わせとなっている。 ・松山地区の複数の行政区（東桜ガ丘、清水台の一部、南桜ケ丘、北桜が丘の一部、坂井）が第一小学校に通学していること、関柴地区の複数の行政区（上高領の一部、下勝、西中明の一部）が第二小学校に通学していること、豊川地区の複数の行政区（高吉二区の一部、太郎丸の一部、堂畑の一部）が第二小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・2つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 9つある小学校を2つにする再編。 (第二小、関柴小、熊倉小、豊川小、慶徳小) (第一小、松山小、上三宮小、第三小)			
他の絞り込み候補パターンとの比較			【中学校】 ・1つの校区への再編であることから、C、Dパターンと比較すると学校規模は大規模となる。 ・C・Dパターンと比較して、校区が広範囲となるため、生徒と地域の関わりについて連携等に工夫が必要となるパターンである。 ・通学区域が広範囲となり、統一した通学手段距離の基準について、C、Dパターンと比較して決定が難しい可能性がある。 【小学校】 ・C、Dパターンと比較して学校規模が大きくなる組み合わせである。 ・Eパターンの別パターンと比較して児童数が多くなる。（児童数について、2つの校区で差は大きくはない。） ・既存中学校区を超えての統合パターンであり、通学範囲がC、Dパターンと比較して遠距離となる可能性が高いパターンである。 ・校区が広範囲となり、C・Dパターンと比較して、生徒と地域の関わりについて連携等に工夫が必要となるパターンである。																

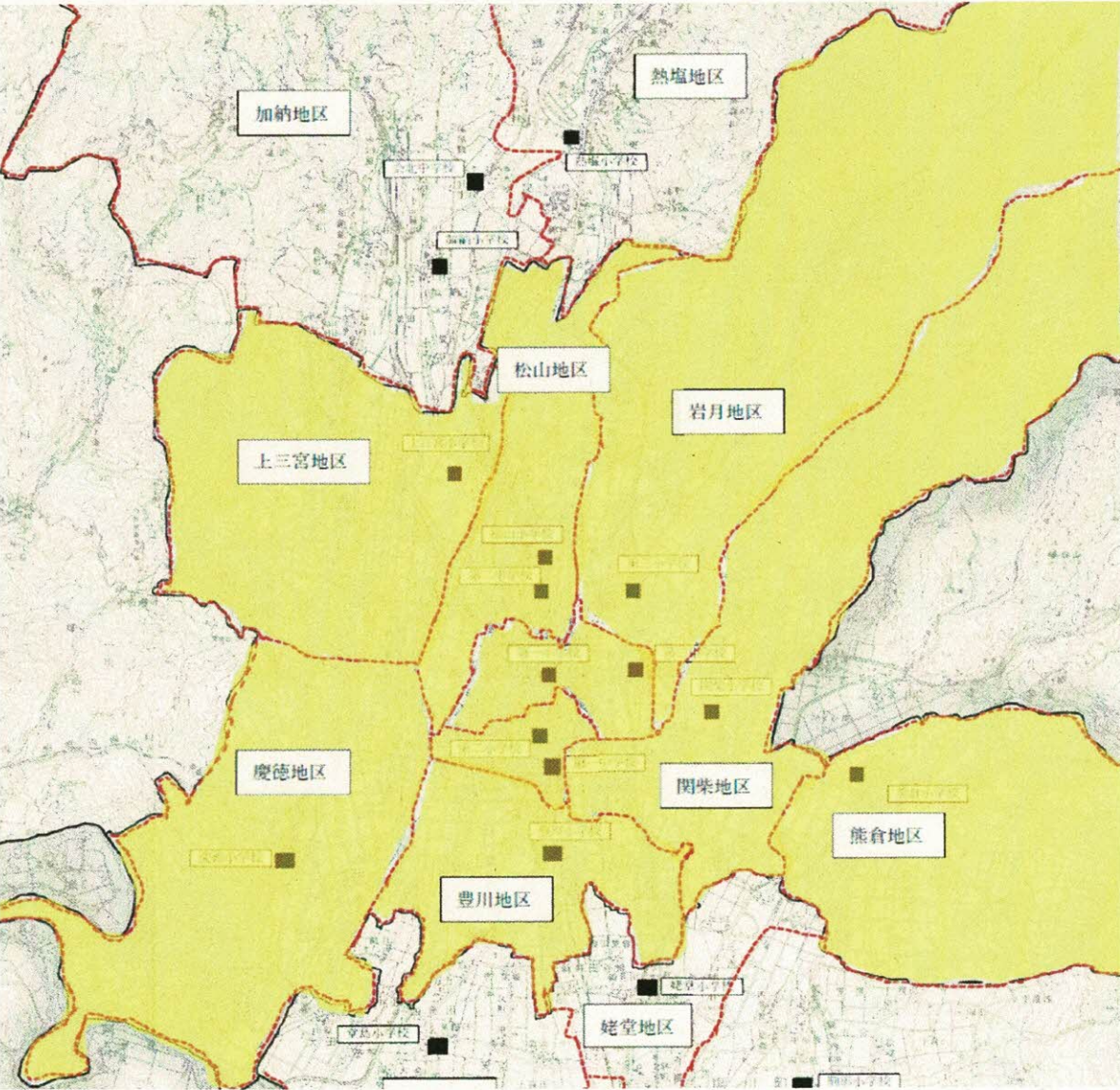
(中学校の地域設定 (学区) のパターン)

○中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンE

パターンE 喜多方地区の3つの中学校を統合 (同一学区) とし、1つの中学校区に再編する。

① 第一・第二・第三中学校区

(第一小、第二小、松山小、上三宮小、第三小、関柴小、熊倉小、豊川小、慶徳小)



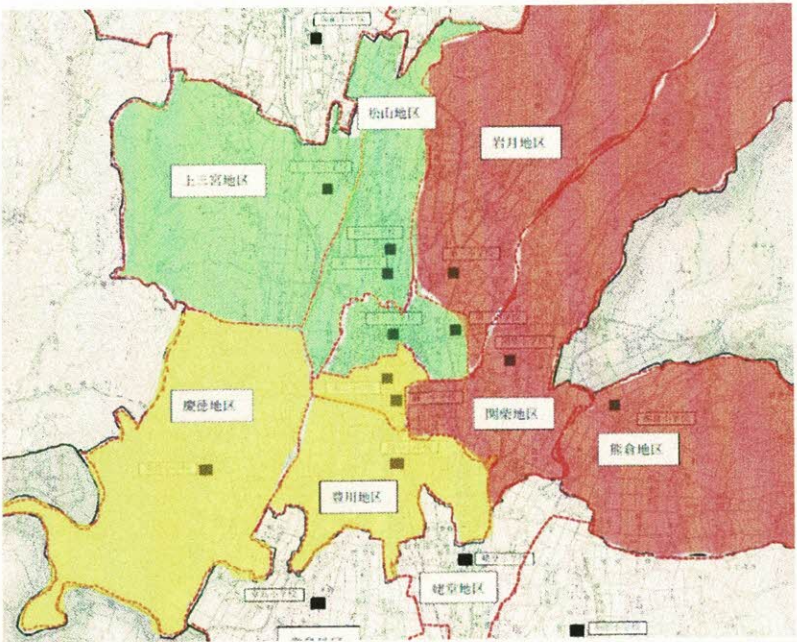
・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中喜E①	2060年 (R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一・第二・第三中学校区	611	204	21	7.0	29.1

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

(小学校：中学校の地域設定 (学区) パターンEの小学校のパターン)

●中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンE①ー小学校パターン③



・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

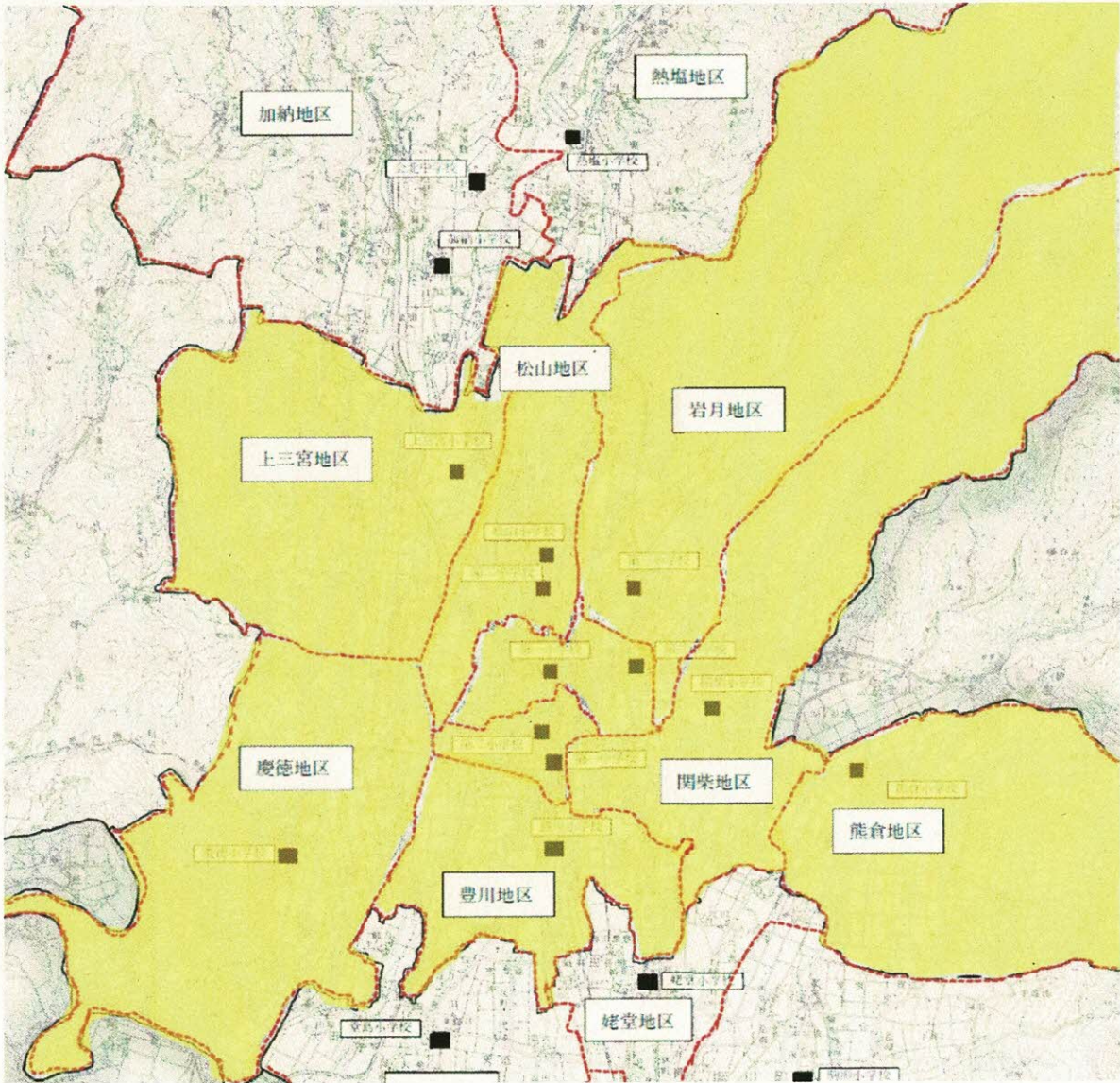
中喜E①小③	2060年 (R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第二・豊川・慶徳小学校区	425	71	18	3.0	23.7
第一・松山・上三宮小学校区	489	82	18	3.0	27.3
第三・関柴・熊倉小学校区	270	45	12	2.0	22.5

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○
○	○
○	○

(中学校の地域設定(学区)のパターン)

○中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンE

パターンE 喜多方地区の3つの中学校を統合(同一学区)とし、1つの中学校区に再編する。
① 第一・第二・第三中学校区
(第一小、第二小、松山小、上三宮小、第三小、関柴小、熊倉小、豊川小、慶徳小)



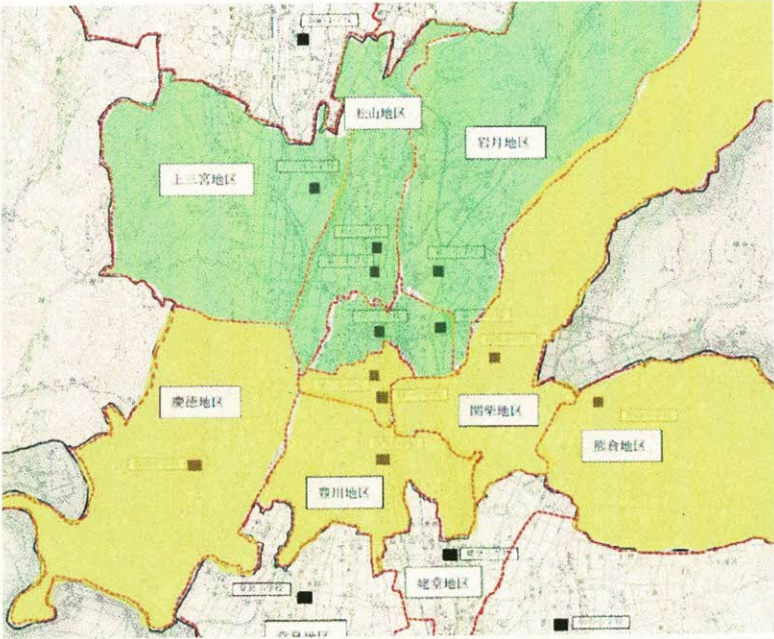
・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜E①	2060年(R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第一・第二・第三中学校区	611	204	21	7.0	29.1

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

(小学校：中学校の地域設定(学区)パターンEの小学校のパターン)

●中学校区ー喜多方地区ー中学校パターンE①ー小学校パターン④



・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中喜E①小④	2060年(R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
第二・関柴・熊倉・豊川・慶徳小学校区	607	101	24	4.0	25.3
第一・松山・上三宮・第三小学校区	577	96	20	3.3	32.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○
○	○

※ 第一・松山・上三宮・第三小学校区について、1、2年生は24人の4学級となる。

望ましい規模						望ましい規模							
地区名	中学校		学級数	学級人数		絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数	小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）
熱塩加納	中	A（現行）	●	①	P29	このパターンのみであるため、このパターンが絞り込みパターンとなる。今後、子どもたちにとって望ましい環境に整備していくため、対応策を検討する必要がある。 【検討すべき事項】 ・より良い学びのために、義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫。 （タブレット等のICT機器の活用） ・多くの部活動から選択できる工夫。	絞り込み候補パターン	小	①（現行）		P30	望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—
								小	②		P31	2つある小学校を1つにする再編。望ましい学校規模に達していないが、絞り込み候補パターンとしたい。今後、子どもたちにとって望ましい環境を整備するため、対応策等を検討する必要がある。 ・「複数の学区が存在する行政区」について解消が図られる。（大森行政区） 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・より良い学びのために、義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫。（タブレット等のICT機器の活用） ・複式学級の可能性もある規模であるため「将来の児童生徒数の変化に伴う適正規模適正配置の考え方」に基づき、複式学級の設置が予想される児童数になった場合の学校の在り方について。 ・1つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童生徒への対応。 ・児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について。	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 2つある小学校を1つにする再編。 （熱塩小、加納小）

		望ましい規模						望ましい規模							
地区名	中学校	学級数	学級人数			絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	
塩川	中	A（現行）	●	①	P32	このパターンのみであるため、このパターンが絞り込みパターンとなる。今後、子どもたちにとって望ましい環境に整備していくため、対応策を検討する必要がある。 ・部活動の選択肢がある程度確保できる。	絞り込み候補パターン	小	①（現行）			P33	望ましい学校規模に該当しないため絞り込み候補とはしない。	—	
									②		●	P34	〃	—	
									③	●	●	P35	4つある小学校を1つにする再編で、望ましい学校規模に該当しており、実施計画（案）たたき台で示した理由により絞り込み候補パターンとしたい。 ・堂島地区、姥堂地区、駒形地区の複数の行政区が塩川小学校に通学しているという「複数の学区が存在する地区・行政区」について解消が図られる。 堂島地区（上遠田、下遠田） 姥堂地区（別府、高木の一部、上江の一部、藤ノ木） 駒形地区（三橋、上窪、下窪、館ノ内） 【このパターンを候補とする場合に検討すべき事項】 ・より良い学びのために、義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫。（タブレット等のICT機器の活用） ・1つの小学校への再編であり、遠距離通学となる児童への対応。 ・それぞれの児童にとっての環境変化への対応。 ・学校の配置について	絞り込み候補パターン 【学区の概要】 4つある小学校を1つにする再編。 （堂島小、塩川小、姥堂小、駒形小）	

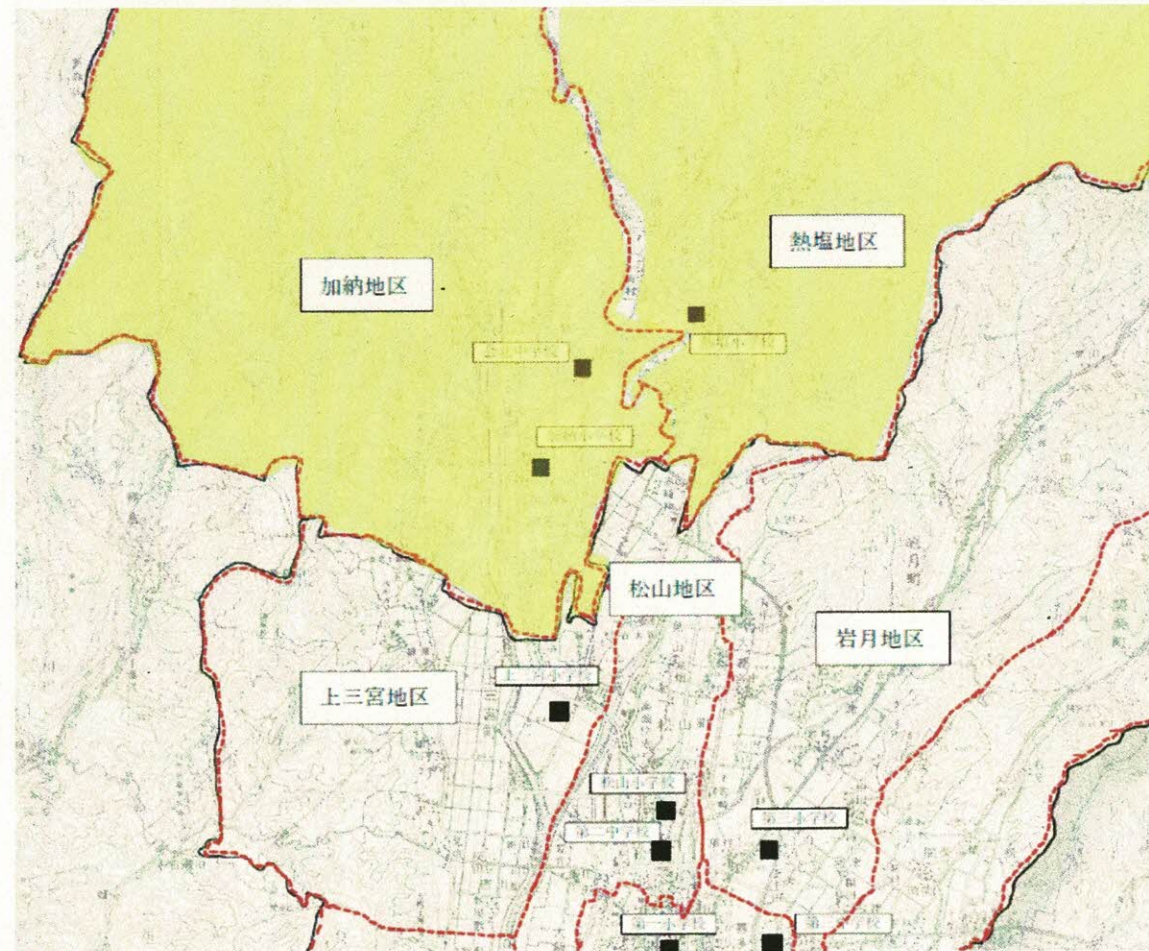
(中学校の地域設定(学区)のパターン)

○中学校区ー熱塩加納地区ー中学校パターンA(現行)

(2) 熱塩加納地区

パターンA(現行) 会北中を存続する。

① 会北中学校区(熱塩小、加納小) 【黄色】



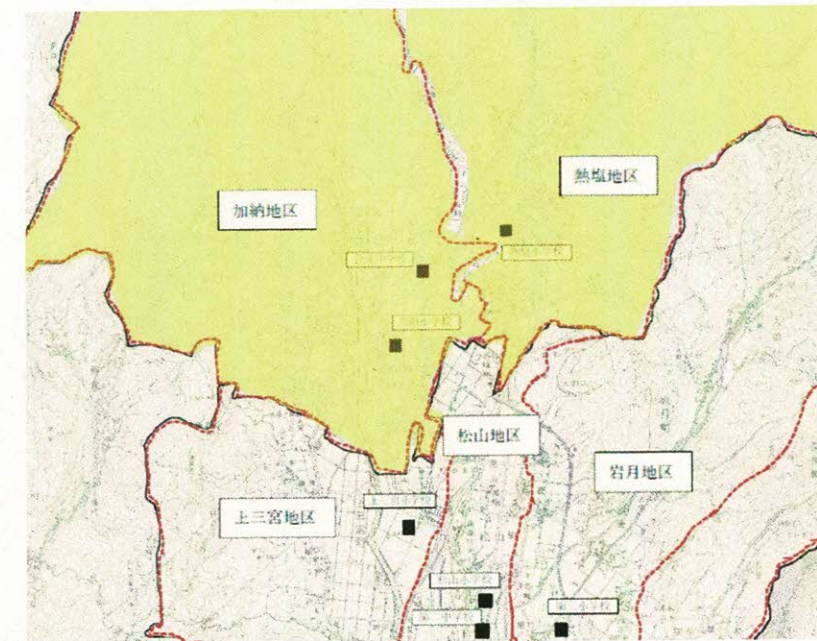
・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中熱A①	2060年(R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
会北中	50	17	3	1.0	17.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	○

(小学校:中学校の地域設定(学区)パターンA(現行)の小学校のパターン)

●中学校区ー熱塩加納地区ー中学校パターンA(現行)①ー小学校パターン②



・将来(2060年)の児童生徒数、学級数等

中熱A①小②	2060年(R42年)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
熱塩・加納小学校区	92	15	6	1.0	15.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	-

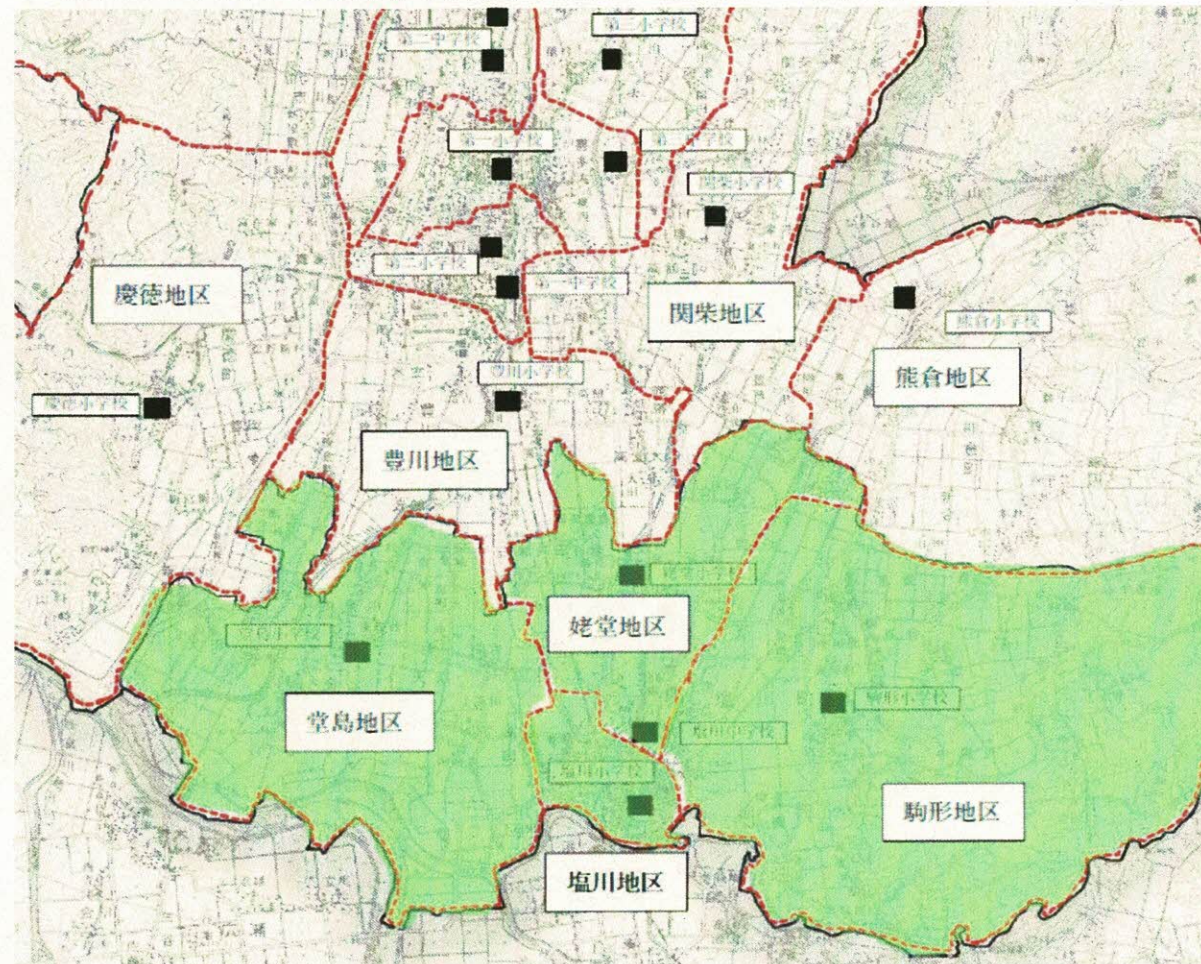
(中学校の地域設定 (学区) のパターン)

○中学校区一塩川地区一中学校パターンA（現行）

(3) 塩川地区

パターンA（現行） 塩川中を存続する。

① 塩川中学校校区（堂島小、塩川小、姥堂小、駒形小） 【緑色】



・将来（2060年）の児童生徒数、学級数等

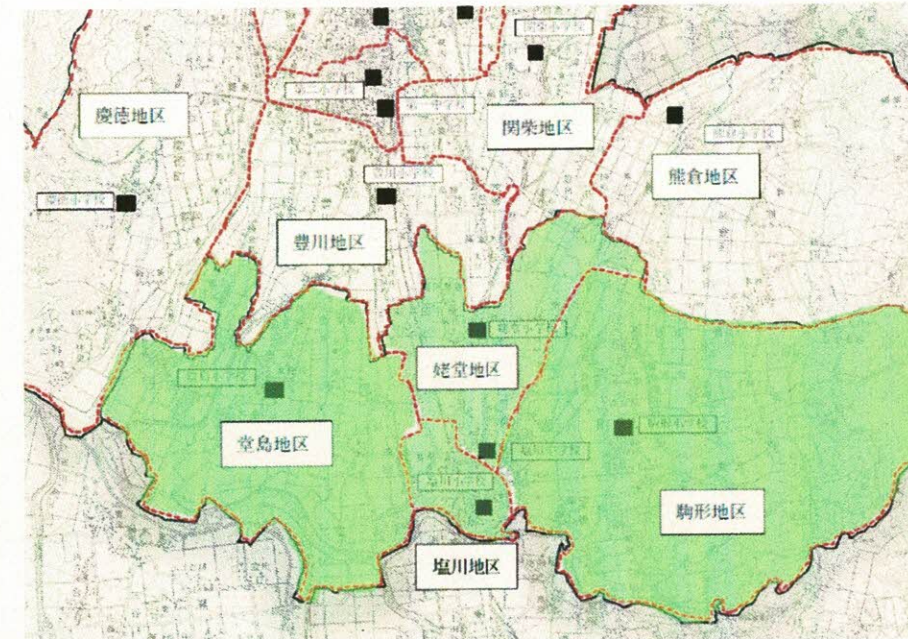
中塩A①	2060年（R42）				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
塩川中	195	65	7	2.3	32.5

※1年生は21人～22人の3学級となる。

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	○

(小学校：中学校の地域設定（学区）パターンA（現行）の小学校のパターン）

●中学校区一塩川地区一中学校パターンA（現行）①-小学校パターン③



・将来（2060年）の児童生徒数、学級数等

中塩 A ①小③	2060年（R42年）				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
堂島・塩川・姥堂・駒形小学校区	388	65	14	2.3	32.5

1、2年生は21人～22人の3学級となる。

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
○	○

		望ましい規模						望ましい規模							
地区名	中学校	学級数	学級人数			絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	
山都	中	A（現行）	●	①	P36	このパターンのみであるため、このパターンが絞り込みパターンとなる。今後、子どもたちにとって望ましい環境に整備していくため、対応策を検討する必要がある。 【検討すべき事項】 - かねてより小中教育の一貫性に配慮してきた地域であり、本格的に義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫。（タブレット等のICT機器の活用） - 多くの部活動から選択できる工夫。	絞り込み候補パターン	小	①（現行）	●	P37	このパターンのみであるため、このパターンが絞り込みパターンとなる。今後、子どもたちにとって望ましい環境に整備していくため、対応策を検討する必要がある。 【検討すべき事項】 - かねてより小中教育の一貫性に配慮してきた地域であり、本格的に義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫が必要と思われる。（タブレット等のICT機器の活用） - 複式学級の可能性もある規模であるため「将来の児童生徒数の変化に伴う適正規模適正配置の考え方」に基づき、複式学級の設置が予想される児童数になった場合には、改めて学校の在り方について。	絞り込み候補パターン		

		望ましい規模						望ましい規模							
地区名	中学校	学級数	学級人数			絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	小学校	学級数	学級人数		小・中いずれも望ましい規模のパターン	絞り込み（案）の検討内容	絞り込み候補パターン（案）	
高郷	中	A（現行）			① P38	このパターンのみであるため、このパターンが絞り込みパターンとなる。今後、子どもたちにとって望ましい環境に整備していくため、対応策を検討する必要がある。 【検討すべき事項】 - かねてより小中教育の一貫性に配慮してきた地域であり、本格的に義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫。（タブレット等のICT機器の活用） - 多くの部活動から選択できる工夫。	絞り込み候補パターン	小	①（現行）		P39	このパターンのみであるため、このパターンが絞り込みパターンとなる。今後、子どもたちにとって望ましい環境に整備していくため、対応策を検討する必要がある。 【検討すべき事項】 - かねてより小中教育の一貫性に配慮してきた地域であり、本格的に義務教育9年間を通した一貫した教育課程や学校スタイルの検討、他校との合同学習や交流の機会を設ける等のカリキュラム上の工夫が必要と思われる。（タブレット等のICT機器の活用） - 複式学級の可能性もある規模であるため「将来の児童生徒数の変化に伴う適正規模適正配置の考え方」に基づき、複式学級の設置が予想される児童数になった場合には、改めて学校の在り方について。	絞り込み候補パターン		

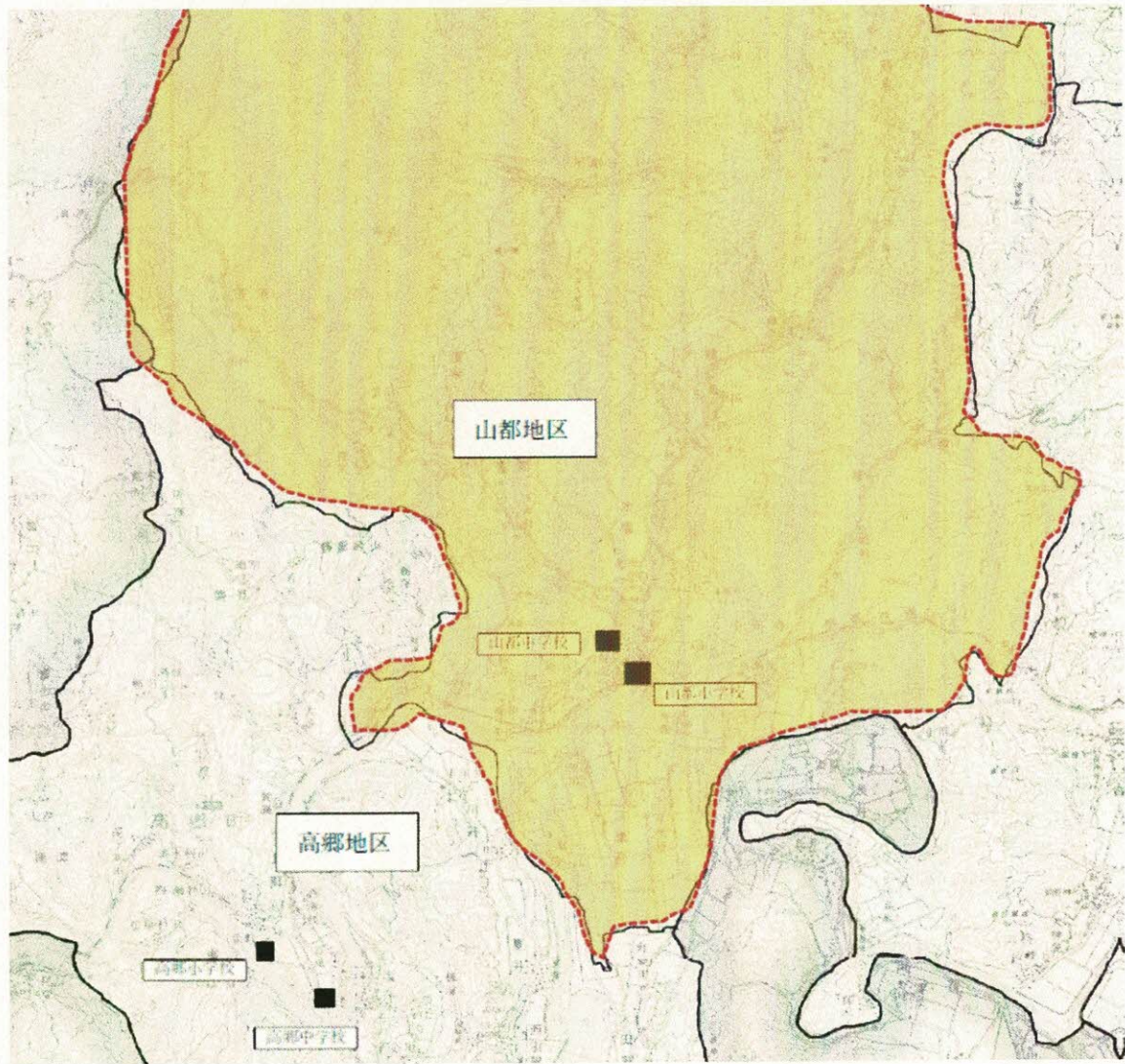
(中学校の地域設定 (学区) のパターン)

○中学校区ー山都地区ー中学校パターン A (現行)

(4) 山都地区

パターンA (現行) 山都中を存続する。

① 山都中学校区 (山都小) 【オレンジ色】



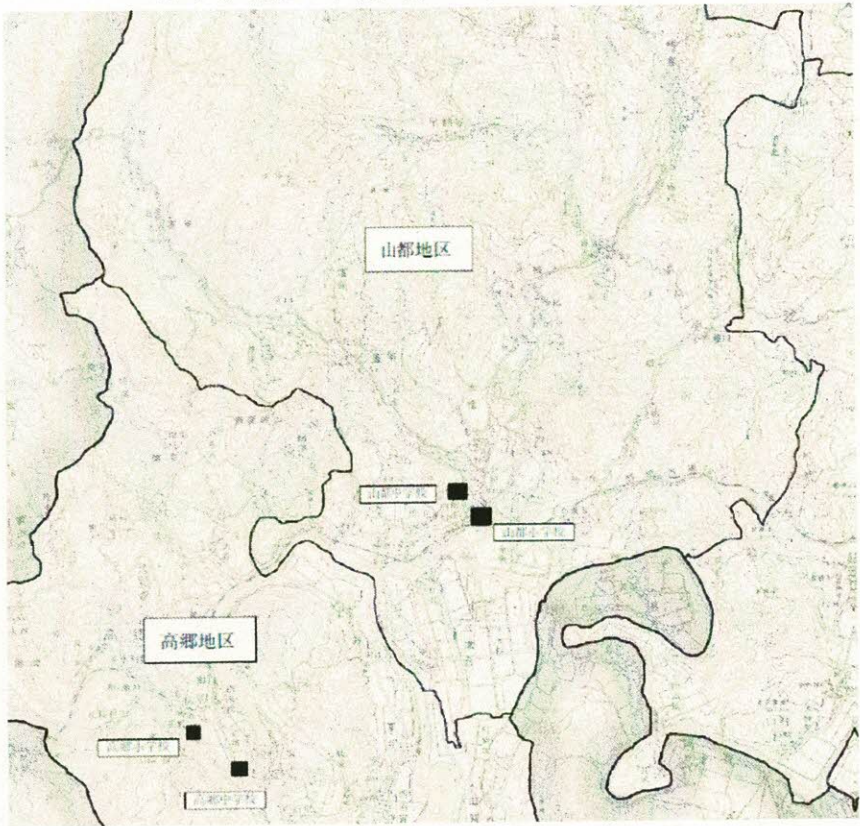
・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中山 A ①	2060年 (R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
山都中	55	18	3	1.0	18.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	○

(小学校：中学校の地域設定 (学区) パターンA (現行) の小学校のパターン)

●中学校区ー山都地区ー中学校パターン Aー小学校パターン① (現行)



・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

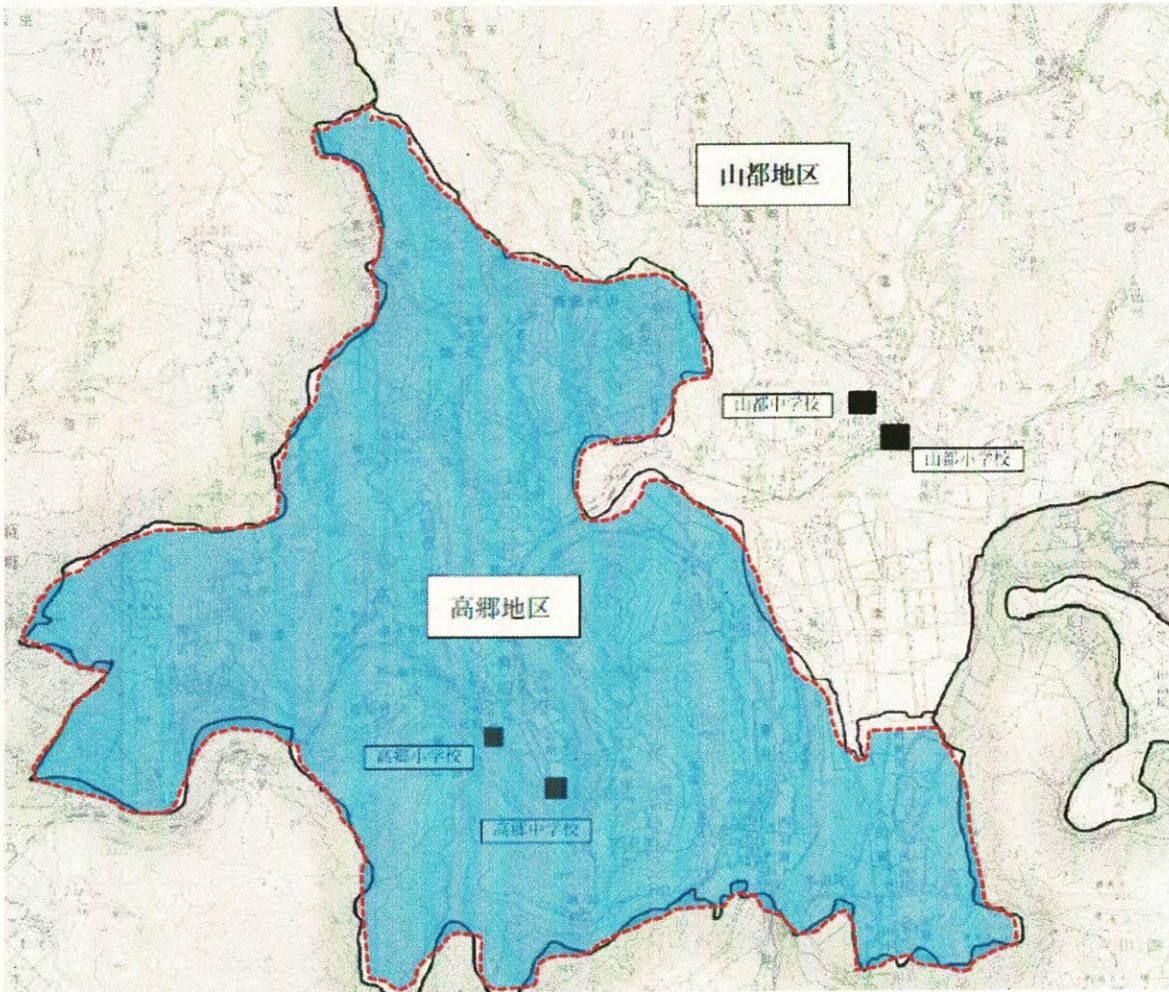
中山 A ①小①	2060年 (R42)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
山都小	109	18	6	1.0	18.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	○

(中学校の地域設定 (学区) のパターン)

○中学校区－高郷地区－中学校パターンA (現行)

- (5) 高郷地区
パターンA (現行) 高郷中を存続する。
① 高郷中学校区 (高郷小) 【青色】



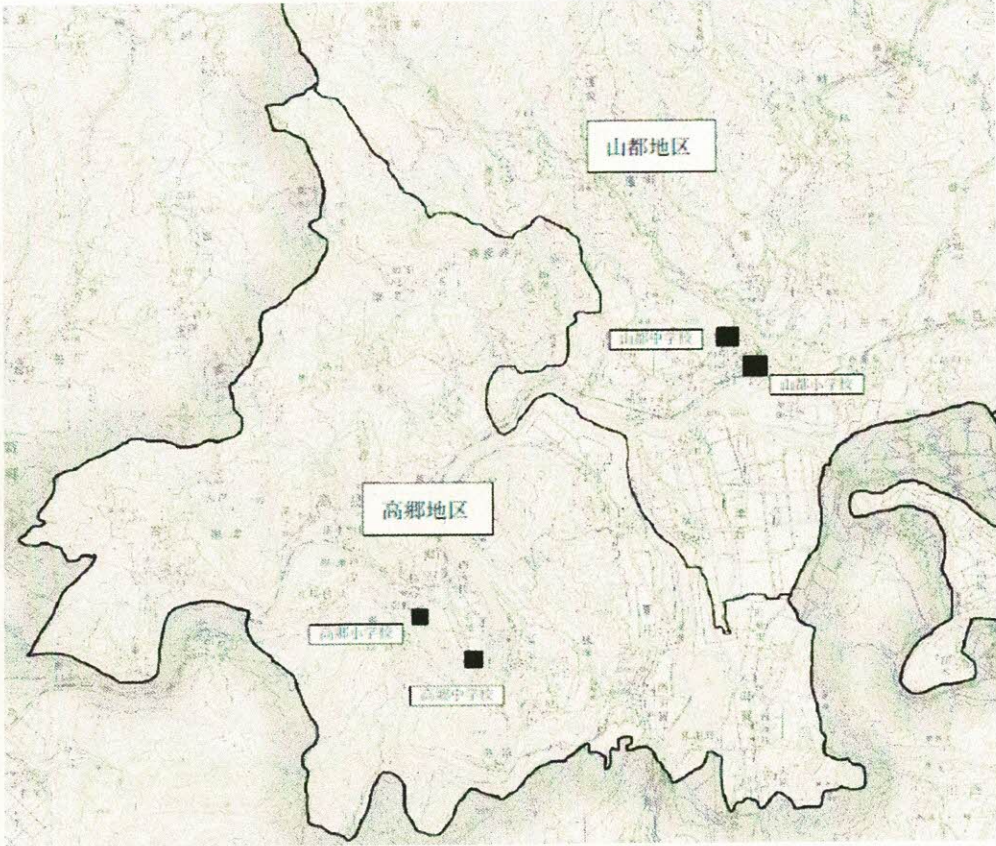
・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中高A①	2060年 (R42)				
	生徒数	各学年の平均生徒数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
高郷中	36	12	3	1.0	12.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	-

(小学校：中学校の地域設定 (学区) パターンA (現行) の小学校のパターン)

●中学校区－高郷地区－中学校パターンA－小学校パターン① (現行)



・将来 (2060年) の児童生徒数、学級数等

中高A①小①	2060年 (R42)				
	児童数	各学年の平均児童数	学級数	各学年の平均学級数	学級の人数
高郷小	70	12	6	1.0	12.0

望ましい学校規模	
学級数	学級の人数
-	-